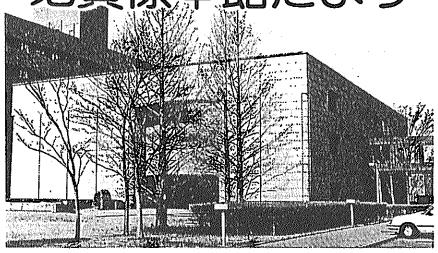
地質ニュース539号，61－62頁，1999年7月
Chishitsu News no.539, p.61－62, July, 1999

地質標本館だより



No.54

普及ミニ講演会「地層のはなし」(1999年1～3月)

地質標本館では，地学の授業が本格的に始まる小学校6年生が団体（クラス単位，あるいは学年単位）で来館した場合には，要請があれば館内展示物の解説やミニ講演会を行って学校の理科（地学）の授業のお手伝いをしています．

今年になって，1月29日につくば市立吉沼小学校6年生（62名），2月19日に下妻市立豊加美小学校6年生（38名），3月4日に水戸市立国立小学校6年生（39名）と鹿島郡旭村立旭北小学校6年生（33名）が地質標本館を見学に訪れた際に，「地層のはなし」と題して地層や岩石に関する講演を地質標本館の坂野靖行技官が行いました（写真1）．この講演では特に筑波山や霞ヶ浦周辺などの身近な場所を例に話が構成されています．講演の準備のため，坂野技官は年末・年始の休日を返上して露頭を調べに行くなどの力の入れようで，できるだけ聴講者が自分で観察に行けるような場所を話題提供しようと心がけていました．露頭の位置図などを示すと，生徒たちにもなじみのある場所だけに，徐々に話に引きこまれていきました．また，この講演には新装なった地質標本館1階映像室の書画装置を解説に用いたので，化石や鉱物などの実物標本をその場でスクリーンに拡大しながら説明することができ，生徒たちの興味をさらに引きつけることができたようです．

（利光誠一）

「第2回 自分で作ろう化石レプリカ」(1999年3月27日)

地質標本館では，一般の方々にも岩石・鉱物・化石などの標本を身近なものとして感じてもらえるようにと，これまでいろいろな体験型イベントを行っています．この中で化石に関しては，1991年以来，夏休みの後半に「化石クリーニング」を体験していただいてきました（地質ニュース451号，p.71など参照）．さらに，昨年から新たに「化石レプリカづくり」のイベントも始めました（地質ニュース535号，p.61参照）．昨年11月の第1回目の試みが好評であったのを受けて，今年3月の第4土曜日開館日に第2回目のイベントを行いました（写真2）．当日はつくば市および近隣の市町村からも多くの参加者があり，総勢で65名の方がレプリカづくりに挑戦しました．また，新聞取材も1件あり，取材の記者さんも子どもたちに混じってレプリカづくりに熱中していました．今回のレプリカの原標本は，古生代の代表的な化石である三葉虫と，中生代三畳紀の示準化石であるモノチス（二枚貝）の化石です（写真3）．特に三葉虫は，第1回目のイベントの折に実施した「希望する化石」のアンケートでも高い人

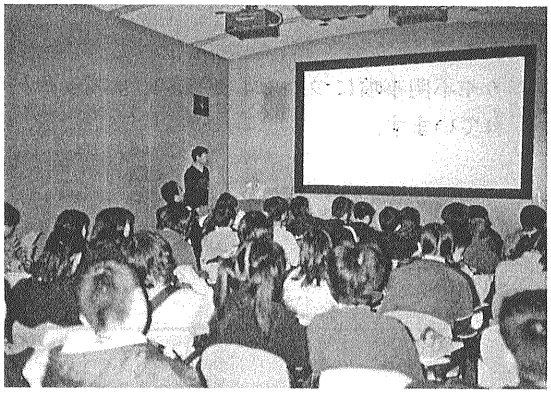


写真1　地質標本館映像室でのミニ講演会の様子．

写真2　「自分で作ろう化石レプリカ」の様子．

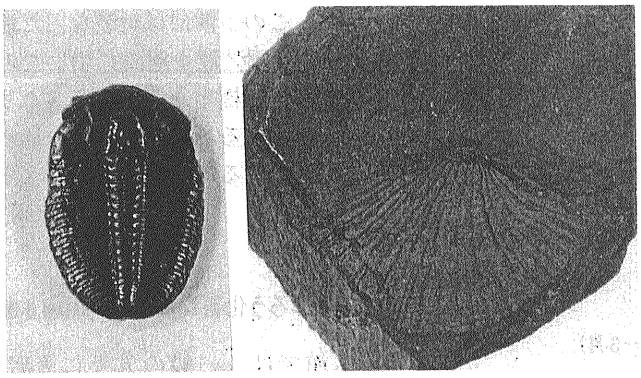


写真3
レプリカの原標本．三葉虫(左)とモノチス(右)の化石．

気のあったものでしたので，参加した方々にも大いに満足してもらえたようです．

今回のイベントでは，地質標準研究室の全研究者（柳沢幸夫・奥山康子・佐藤喜男・坂野靖行・利光誠一）と大田義浩専門職（現・東北工業技術研究所）・春名　誠非常勤職員に加え，博物館実習生（千葉大学，5名）がレプリカづくりの指導にあたりました．今回も参加者からは好評の声が多く，次回への期待もありましたので，今後もレプリカづくりのイベントを継続していきたいと考えています．作ったレプリカは記念に持ち帰ってもらっていますので，リピーター各自の“化石コレクション”が徐々に増えていくように配慮し，できるだけ多くの種類のレプリカを提供していくつもりです．今回も希望する化石のアンケートを行いましたが，人気の高いリクエストにもいずれ応えていきたいと考えています．

（利光誠一）

地質標本館所蔵標本目録

地質調査所は創立以来の調査・研究の過程で収集された約40万点の標本を有し，地質標本館がその登録と管理を行っています．これら標本の内容を広く一般に知っていただくために，標本館ではテーマ別に纏められた標本目録を刊行することにしています．「地質調査所標本資料報告」がそれで，第1号は「植物化石」(1995，地質ニュース 496号，p.67参照)，第2号は「岡本鉱物コレクション」(1998，同535号，p.60参照）です．このたび第3号が刊行されましたので，その内容を紹介しておきます．

この号は「日本産鉱石標本類・Ⅰ」として，金・銀・銅・鉛・亜鉛の鉱石標本を収録しています．個々の標本単位ではなく，鉱石を産した鉱山別に纏めてある点がこの目録の特徴です．すなわち，各道府県ごとに鉱山名が北から南へ並び，夫々の鉱山の所在地・収蔵鉱石を構成する主な鉱物名・簡略な鉱床の記載などが掲げられています．つまり，何処の鉱山のどんな鉱石が所蔵されているのかを知る手がかりとしての目録です．鉄やマンガンなど，その他の鉱種の鉱石についても，同様な目録の作成が続けられているところです．

また，第1号の増補・改訂版もできあがり，「地質調査所研究資料集 338号」として公開されました（松江千佐世・尾上　亨，1999)．原版の植物化石標本3100点余が約3600に増え，原版での誤りや不明事項についても可能な限りの改善がなされています．

（遠藤祐二）